

Alice

76/45



- SIDE 1
1. チャンピオン (谷村新司作詩・作曲 / 石川廣彦編曲) 4'12"
 2. 秋止符 (谷村新司作詩 / 堀内孝雄作曲 / 石川廣彦編曲) 4'10"
 3. ルート・サンシャイン (谷村新司作詩 / 矢沢透作曲 / 芳野藤丸編曲) 3'11"
- SIDE 2
1. つむじ風 (谷村新司作詩・作曲 / 種原信彦編曲) 3'48"
 2. 冬の稻妻 (谷村新司作詩 / 堀内孝雄作曲 / 石川廣彦編曲) 3'05"
 3. 砂塵の彼方 (谷村新司作詩 / 堀内孝雄作曲 / ラスト・ショーブンド) 3'48"
 4. センチメンタル・ブルース (谷村新司作詩 / 矢沢透作曲 / 矢沢透 & 大浜和史編曲) 3'39"

制作にあたって

日頃は、第一家庭電器を、ご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。DAM45オーディオ・チェック・レコードも、会員の皆様のご声援に支えられて、今回で19種類目となります。(なお、過去のDAM45についての詳細は、今春発行の「テープとデッキ実戦テクニックII」に掲載されております。)

DAM45の制作ポリシとして、(良い音楽を良い演奏で、しかも良い音で)企画してまいりましたが、そのなかでも、一番難しいのが「良い音楽」ということでしょう。一口に音楽といっても、極めて範囲が広く、全ての皆様が知っていて、かつ好まれる音楽を搜すのは、大変に難しいことです。

現在、多くの若い世代に支持されている音楽としては、なんといっても、ニューミュージックが第一でしょう。しかし、ニューミュージックは、オーディオ・チェックに不向きなものが多々、又、契約関係の問題から、今迄、DAM45に実現されませんでした。

しかし、今回は、ニューミュージック・ファンのご要望に答えて、多々の難關を乗り越え、遂に「アリス」の登場となりました。人気絶頂の「アリス」については、あらためて申し上げることは何もないと思いますが、その美しく、迫力のあるサウンドは、オーディオ・マニアにも充分楽しんでいただけることでしょう。

最新のアルバム「アリスVI」「アリスVII」の中から、ベスト・ヒットを中心に7曲をDAM45に収録いたしましたが、市販盤と比べてみると、音質にかなりの差を感じることと思います。これは、市販盤の場合、何十万人という多くの方が購入されるわけですから、針が飛んだり、音が歪んだ等というトラブルが発生しないよう、色々配慮されています。しかしDAM45は、限定されたオーディオ・ファンに頒布されるわけですから、そのような制約は一切とりはらって、76cm/secマスター・テープの持つ素晴らしいクオリティを、レコードで再現するべく、リミッター等を使用せず45回転ハイレベル・クォーツ・ロック・カッティングいたしました。また、プロ・ユース材を使用し、厚手プレスを採用しています。

オーディオ的な聴きどころとして、第一曲目の「チャンピオン」でのボーカルとバックのリアルさと迫力は、これはDAM45ならではのものでしょう。

又、曲によって、録音スタジオや器材が異なるようですが、その様なレコーディング条件の差が聴きわけられるかどうか、チェックポイントになります。

なお、「アリス76/45」の制作にあたっては、関係各位の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心からお礼申し上げます。

是非、心ゆくまで、完全限定盤「アリス76/45」をお楽しみください。DAMといいたしましても、更に今後、会員の皆様に満足していただけるようなソフトの開発に努力いたしますので、よろしくご支援のほど、お願ひ申し上げます。

曲目紹介

伊藤 強

「チャンピオン」 谷村新司作詩・作曲

大ヒットとなったアリスの代表作。ボクサーを主人公に、人生のきびしさ、激しさ、淋しさをうたいあげる。生きていくことは、たたかいであり、それに敗れてしまうことだってある。しかし、敗れたあとで、ふたたび新しい人生がはじまることがあるのだ。そのような、ひたむきに、激しく生きている男への限りない連帯がうたいあげられる。「ユアー・キング・オブ・キングス」という言葉にそれが象徴される。男性を主人公にした歌をヒットさせることは、まことにむつかしいことなのだけれど、アリスはそれを完全に成功させた。地鳴りのようにひびくバックのサウンドも聞きものである。アリスVII収録。

「秋止符」 谷村新司作詩 堀内孝雄作曲

やわらかく美しいメロディのイントロに乗って曲がはじまる。ここですぐに曲のふんいきが作られてしまう。前半のソロから、サビになってのコーラス。このコーラスが、人と別れた淋しさをうまく表現している。夏が終って、これからたった一人でごす秋が来る、ただでさえ淋しい秋。それなのに、今年の秋は、より淋しいものになりそうな予感がする。そんな思いが、やわらかいサウンドに乗って伝えられる。チェンバロを思わせるバックの音が、夏の終りの夕暮の風景を描きだす。誰もがそんな景色を見たことがあるに違いない、一見平凡に見えて、それがひとつのシンボルにもなり得る風景、その把握が的確である。アリスVII収録。

「ルート・サンシャイン」 谷村新司作詩 矢沢透作曲

ロックン・ロールに乗って、一年ぶりに逢う恋人を待つ男の、はずむような気分がうたわれる。逢えればすぐに教会まで行って、すぐにウェディング。二人の前に、さえぎるものは何もない。そんな楽しげな、わくわくするような心情が伝わってくる。たたみかけるような曲のはこびが、それをきちんととらえている。計算の行き届いた作曲だといつていい。ロックン・ロールは、こんなふんいきのための音楽であるような気さえする。アリスというグループの、レパートリーのハバ広さを示す作品だといつていい。アリスVII収録。

「つむじ風」 谷村新司作詩・作曲

「アリスVII」から。ティンパニーが鳴りひびき、迫力にみちて歌がながれはじめる。何ものをも恐れず、自分自身の情熱で人生に立ちむかえと、アリスは熱っぽくうたいかける。そのように、勇気を持って生きることが、本当の意味で生きることだと言うのだ。ドラムをフィーチャーしたサウンドが迫力を生み出し、間奏ではエレキ・ギターが、人生のもだえを表現し、後半からコーダに至って、柔らかいサウンドでキーボードが鳴る。メリハリがきちんとついて、アリスの主張が、くっきりと浮びあがってくる。谷村を中心とするボーカルが、激しさをともなって、聞く人間を説得してしまうかのようだ。

「冬の霜妻」 谷村新司作詩 堀内孝雄作曲

御存知、アリスの代表的ヒット曲のひとつ。ニューミュージックのグループの中では、サウンドよりも言葉の持つ意味にウェイトを置いている数少い存在がアリスだと言つていい。この歌は男女の別れに際してのショックをテーマにしている。だから、ボーカルはほとんど絶叫するようにうたわれる。ひとつひとつのフレーズを、マイクにたたきこむようにしてうたっていく。それが、主人公の受けたショックの大きさをあらわす。このようなボーカルは、アリスならではのものであり、他の追随を許さない。この作品がヒットしたのは、必然である。LP「アリスVI」収録。ボーカルは堀内が中心。

「砂塵の彼方」 谷村新司作詩 堀内孝雄作曲

不幸を求めるわけじゃないけど／幸福を望んじゃいけない時がある……。たしかに、さまざまな人生、人生のさまざまな時期に、そういうことはある。外人部隊の兵士をテーマにしているけれど、そのような特殊な環境におかれた人間だけではなく、どんな人間にも共通するテーマである。人はいつも、自分自身のためにだけではなく、他人のために、その人生を投げださなければならないことがある。愛する人間のために。そのような思いが淡々とうたわれていく。声高にそれを叫ぶのではなく自らをふりかえり、むしろ静かに澄んだ気持でうたうところに説得力が生まれる。アコースティック・ギターと、ハーモニカが効果的に使われている。アリスVI収録。

「センチメンタル・ブルース」 谷村新司作詩 矢沢透作曲

男同士の、サラリとした友情がうたわれている。この男達、いつも肩をすくめて、自らにふりかかってくる不幸や、不運をやりすごしている。いつもは平気な顔をしているのだけれど、二人が逢えば、言葉で愚痴は言わなくて、お互いにわかってしまう。そんな、ちょっとシャレた男同士の関係が、いくらかジャズっぽいサウンドに乗ってうたわれる。比較的高い音域を使っているところ、バックの楽器的サウンドで処理されているコーラスが効果的に生きる。アリスのレパートリーとしては、かなり異色のものといつていいだろう。アリスVI収録。

■メンバーアイ

●谷村新司（ボーカル・ギター）アダ名チンペイ

1947年12月11日、3人兄弟の末っ子として生まれる。'64年大阪府立大和川高校に入学、翌年アマチュア・グループ「ロック・キャンディーズ」結成。'66年桃山学院大学に入学。'70年「ロック・キャンディーズ」を率いてアメリカ、カナダ、メキシコへ遠征。'71年2度目の海外遠征（8月）。同年12月5日、堀内孝雄と「アリス」を結成する。'72年デビュー曲「走っておいで恋人よ」を発表。同年5月5日、矢沢透が参加して現在の「アリス」が誕生する。

●堀内孝雄（ボーカル・ギター）アダ名ベーヤン

1948年10月27日3人兄弟の末っ子として生まれる。'66年桃山学院大学入学、フォーク・グループ「ピース・マイカーズ」に加入。ライトミュージック大阪大会フォーク部門で第1位となる。'68年ライトミュージックの作曲グランプリを獲得。「ピース・マイカーズ」解散後、神戸のフォーク・サークル「ポート・ジュビリー」に加入。'69年「バンド・フリーシュ・ラザース・フッド」で活躍する。同年「Soulful Bloods」に加入。'71年、谷村新司と「アリス」結成。

●矢沢透（ドラム）アダ名キンチャン

1949年2月6日、次男として横須賀に生まれる。'65年高校入学と同時にドラム熱が高まる。'68年「Repulsion」というグループを結成、各地の米軍キャンプを廻る。同年、グループ解散、「Soul Brothers」というグループに加入し、'72年「アリス」に参加する。

DAMオーディオ・チェック・レコード「アリス76/45」

小林 寛

今回のDAMオーディオ・チェック・レコードは、この種のレコードとしてはちょっと珍しいニューミュージック。それも人気グループ「アリス」の登場だからオーディオ・マニアのみならず、広く音楽ファンにとっても充分に楽しめることだろう。

普通オーディオ・チェック・レコードというと生楽器主体のジャズやクラシック、邦楽といったものが多く、それもイコライザー、リミッター、コンプレッサーetc.etc.というものを一切使わない、極力シンプルな録音がベターとされている。私の場合そうしたレコードの音の素晴しさは充分に認めるところはあるけれど、ほとんど1~2回聴いて、後はレコード・ラックにしまいっぱなしで事になりがちで、普段鳴っているのはどうしても自分のお気に入りのアーティストや曲ということになる。こういった傾向は、おそらく私一人だけでなく多くの音楽好きのオーディオ・ファンも同様だと思う。

オーディオ・コンポーネンツは、そもそも音楽を聞く（楽しむ）ためのキカイだから、それを使う人の好みのジャンルをうまく鳴らしてくれれば、その組み合せは成功とみるべきで、その点このレコードはたくさんのファンを持つ「アリス」ということで、多くのオーディオ、音楽ファンの役に立つ事うけあいだ。ただ、こうしたニューミュージック系のレコードは、とかく音マニア達に嫌われがちなリミッター、イコライザー、コンプレッサー、ディレイといったエフェクターを最大限に駆使して音造りを行なっているから、ハイ・エンドのオーディオ・マニアの中には顔をしかめる人も多いと思う。けれども、使用する再生機器のグレードが高ければ、そうしたエフェクターの使いこなし方までが、はっきりと確認できて、プロの音造りを探るなんて楽しみも見出せるはずである。あるいは、また、グラフィック・イコライザーなどを使って自分好みの雰囲気にして聴くなんてのも楽しいだろう。

さて、このアルバムだが、ビッグ・ヒット・ナンバー“冬の稻妻”“チャンピオン”などが収められていた“アリスVI”と“アリスVII”から7曲をセレクトしたもの。

どちらかといえば、この手の音楽、音なんて余り気にしないで曲の内容を楽しんで欲しいのだけれど、オーディオ上のチェック・ポイントを私なりに挙げてみようと思う。まず、ボーカル、つまり人の声。これは、電話やトランジスター・ラジオなんていうオーディオ機器と比べると子供だましみたいな物理特性のキカイでも、しゃべっている人が誰だか判る程特徴的な音。これが判別できないようなコンボはまず落第。でも、いまこの文を読んでいる人のコンボは絶対そんな事はない、谷村新司の唱は谷村新司の声。堀内孝雄の唱は堀内孝雄の声に聴えているはず。それがどこまで、らしく聴えるかがポイント。次にはボーカルに付加してあるエコー。これが最後まできちんと聴えるかで高域特性と解像度が判るだろう。またコード（和音）でリズムを刻むギターやハイハットシンバルなどでも高域の質感が判る。妙なクセやビ

ークのある機器だと耳障りになってしまうのだ。バックのストリングスやパーカッションではシステム全体の奥行き感や音像定位。スネア・ドラムやバスドラなど、ダンピング・ファクターやトランジメントのチェックができるだろう。また、音楽全体を聴いて、いくつの楽器があって、何人のコーラスがバックにあるかなんてのを数えてみるのも良いだろう。隠し味的に小さなパーカッションが色々なところで使われているのがだんだん判ってくると思う。さらに間奏のディストーションぎみのエレキ・ギター・ソロでリミッターがどこで入っているかといったところで、システム全体のグレードが判るのではないかと思う。

このレコードは45回転、ハイ・レベル・カッティングという事で、ちょっと聴いただけでもS/Nが格段に向かっているのが判る。曲の部分を普段聴いている位の音量で再生し、オリジナル・アルバムと比べると無音溝でのスクランチ・ノイズが驚く程低くなっている。おそらくオリジナルよりも2~3dBは高いレベルでカッティングされているに違いない。もし、貴方がオリジナル・アルバムを持っているなら是非聴き比べて欲しい。したがって、いつでも条件の許す限り、できるだけ大きな音で楽しんでいるという人は、近所めいわくにならない様に注意が必要だろう。

そのうえ厚手レコードというのも、音にうるさいオーディオ・ファンにとっては頗もしいところ。というのは、最近レコード盤自体の共振が問題になっていて、事実それが音質劣化につながっているのは明らか。そんな訳でオーディオ・マニアの中には、お気に入りのレコードを2枚貼り合せて聴いている人もいる程なのだ。その点、このレコードは、そんなめんどうな事をしないで手軽に良い音が得られるのだから有難い。

今、私が挙げたのは、ほんの一部だから、皆様も自分で色々なポイントを見つけて楽しんで欲しいと思う。

アリスの録音に立ち合って

東芝EMI ミクサー 小菅憲一

私がアリスの録音に参加することになったのは、前任者である野路ミクサーがスケジュール的に立ち合えないとのことで、急に決ったのでした。大先輩の野路ミクサーとの引き継ぎも早々に、メンバーとの打合せ、橋場ディレクターとの打合せ等々アルバムの音創り初参加のスタートでした。これがアリスIIです。

急にアリスのスタッフになり、まずアリスIを再試聴いかに特徴をつかむか、そしてマルチマスターの試聴から、バランス調整等、あらゆるチェックを試みる、彼らのサウンドを中心にして……。日時もせまった中で最大限にベストをつくすこれがプロだと自分に言い聞かせ（しかしプロという言葉がこの様な状態の時程重く感じられることはありません）本番に挑戦。初日のスタジオがアルファスタジオでした。私自身何度も来ていたのでスタッフの気心、機材等がわかっていたのも恵まれていた様に今になって感じます。調整卓に向い音だけに集中出来ること何も考えずに無……、さあスタート、アリスのアコースティック・ギターの美しさ、ハーモニーの調和、リズムのノリ、バックとのバランス、自然に私の指もフェーダーを動かしていました。一つ一つの音を確めテイク1、テイク2、取り終ったあとのプレイバック、この初めのレコーディングの緊張は子供が運動会で走るあのスタートの時と同じでした。彼ら3人の中の音質チェック、長い、3分間、メンバーの考えていた音とがバッチリ！この様にスムーズな出会いとなりました。

出来上りに感じたことは、この素晴らしいアーチストがなぜ人気と正比例しないのか、数多くいるアーチストの中でもこんな無限の可能性を秘めたアーチストはそうは出でこない、一曲当ればきっと大スターとなること信じて来たのがズバリ当りました。気がついたら何んと6年間があっという間に過ぎていました。よしこれからは今までの若いファン層だけでない誰にでも受け入れられるビッグ・スターにと、私も別の角度からアレンジの先生等との打合せやメンバー個人の個性を最大限に引き出そうと私なりに大きな夢を持った矢先の移籍となり、私にとっては残念！しかしこれからアリスが日本だけでなく世界に通用するアーチストとなる、又それが出来るのもこのグループと信じ、ファン以上に又期待しています。

これからももっと頑張れ！ チンペイ、ベーヤン、キンチャン

■録音データー

曲目	チャンピオン	秋止符	ルート・サンシャイン	つむじ風	冬の稻妻	砂塵の彼方	センチメンタル・ブルース
楽器編成	ドラム	アコースティック・ギター	ドラム	ドラム	ドラム	ドラム	ドラム
	エレキ・ベース	エレキ・ピアノ	エレキ・ギター	エレキ・ベース	エレキ・ベース	エレキ・ベース	エレキ・ベース
	エレキ・ギター	エレキ・ベース	エレキ・ベース	コンガ	エレキ・ギター	エレキ・ギター	エレキ・ギター
	ピアノ	ソリーナ	ギター	ハモンドオルガン	テンバーカッショ	エレキ・ピアノ	エレキ・ピアノ
	アコースティック・ギター	マンドリン	ピアノ	アコースティック・ギター	アコースティック・ギター	ピアノ	ソロ・バイオリン
	バイオリン	ピアノ	ハモンドオルガン	エレキ・ギター	バイオリン	アコースティック・ギター	アコースティック・ギター
	ピオラ		シンセサイザー	ラテンバーカッショ	ピオラ	ムーグ	
	チェロ			ティンパニー	チェロ	ハーモニカ	
	クラビネット			ティンパレス	ティンパレス	ピアノ	
	チェンバロ			カウベル			
ボーカル	谷村・堀内	谷村	谷村	谷村・堀内	谷村・堀内	堀内	谷村
スタジオ	アルファスタジオ	サウンドイン	サウンドイン	東芝EMI	アルファスタジオ	東芝EMI	オンキョーハウス
日時	53.11.8	54.5.1	54.5.4	53.2.23	52.7.28	53.2.15	53.2.11
テープ	24ch 76cm/sec	24ch 76cm/sec	24ch 76cm/sec	16ch 76cm/sec	16ch 76cm/sec	16ch 76cm/sec	16ch 76cm/sec

■クオーツ・ロック、厚手レコードについて

【厚手レコードについて】

現在のレコードは再生系機能のグレード・アップに伴い、一段とDレンジ、Fレンジ、及びリニアリティ第、大幅に飛躍しています。振幅(P-P) $250\mu\sim280\mu$, [L-R], ピーク・レベル+20dB程度のものは数多く高密度レコード化しております。このような高密度レコードの溝波形を完全にトレーシングする為に再生時の技術的ノウハウ、及びそのテクニックがいろいろ考えられ、かずかずのオーディオ誌上でも論じられています。ヘッド・シェル、トーン・アームやターンテーブル・シートの共振問題等々……たとえば、ターンテーブル・シートを例にとっても、ゴム、なめし皮、ガラス、金属等、変える毎にその音質の変化は確実に差があります。このように再生時の高忠実トレーシングはさまざまな問題が残されています。

それでは、ディスクそのものはどうかと考えますと、一時期、薄いレコードはプレスでの塩ビ成形性が良いとされ、超薄形レコードが話題となりましたが、その一方、レコードの厚さ(質量)がもたらす音質への影響について、再生時の問題を含んだトータル・サウンドとして研究されてきた経過が有ります。厚手レコードの持つ音質上の優秀性に着眼した当社では、今までの各種データを基に、材料開発、プレス技術をも含めたプロジェクト・チームをつくり、厳しい条件下でヒヤリング測定をはじめとした各種テストを繰り返し、遂

に音質バランスがラッカー・マスターに近いトン・キャラクターをもつレコードを、ここに提供することが出来ました。レコードを厚くする(質量を増す)ことでレコードの共振を下げ、更に再生時のレコードとターンテーブル・シートとの間に起る共振を緩和させることで、中音低域の分解能が一段とクリアになり、特に深みの有る、伸びた重低音の再現とバランスされたダイナミックなパワー感を充分にお楽しみ下さい。

この種のレコードは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来からのプロフェッショナル・レコードで開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定性効果の高い安定剤の組合せにより、一層ゲル化性の改善を図り、また更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果ともあいまって極めて安定度の高い、この厚手レコードが生まれました。

レコード材質及び製造プロセスについては、東芝EMIプロフェッショナル、レコード仕様と同様現時点最高の製造技術を導入して品質の安定化を図っております。
尚このレコードはハイレベルでカッティングされている為、トレーシング時には針トビ、ビリツキ、等でレコードを傷つけやすい切削状となっています。
再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の摩耗状態、針圧(メーカー指定の重い方にセット)には充分気を付けて下さい。

■VMS-80の特長 (従来のカッティング・マシーンとの比較)

1. ターンテーブル・ドライブ方式	クオーツ・ロック・モーター ダイレクト・ドライブ方式
2. 静的ワウ特性	0.03%以下
3. 動的ワウ特性	測定限界以下
4. ターンテーブル・ペアリングの方式	無雜音、ハイドロ・ダイナミック・ペアリング
5. 外来振動に対する特性	12dB以上改善
6. 顕微鏡	溝頭微鏡、針先頭微鏡両方有り TVモニター付(オプション)
7. ラッカーボード固定方式	下方より、ターンテーブル・ペアリングを通して行なう方式
8. カッターヘッド・キャリッジの方式	サンドイッチ構造(完全メタル構造) 完全モーター・ドライブ方式
9. カッターヘッド位置検出方式	高精度リニアポテンショメーターとA/Dコンバーターによる方式
10. バリアブル・ピッチ及びデップス・コントロール方式	モーター・ドライブ方式 デジタル遅延装置による位相差検出制御、及び使用済ランドを電気的にシミュレーションし、余剩スペースを検出する方式
11. カッターヘッド・サスペンション方式	高精度であり、ダイナミック特性が改善されている。又、矩形波による高精度デップス・コントロールが可能

*以上の部分が改善されたマシーンです。

30セシチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 1/3回転レコードと変わった点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33 1/3回転にくらべて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意をして下さい。
- (3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15°C~20°C位に保って下さい。

レコード材質——プロユース材料使用

プロデューサー 小山正敏
橋場正敏
ミクサー 小菅憲一
カッティングエンジニア 竹内昭五
カッティング 竹内昭五
東芝EMIカッティンググループ
カッティング日時 S.55.4.22
テープレコーダー Studer A-80 MK II
ドライブアンプリファイア Neumann SAL-74
カッティングレース Neumann VMS-80
クオーツロックモーター
カッティングヘッド Neumann SX-74
音源協力 サンダー音楽